

サマリー

- ・長期欠席児童生徒の居場所の確保（**在籍校に教室以外の居場所を設ける、学校外支援等**）、児童生徒の心理的支援、長期欠席児童の支援に関し家庭に対する情報提供、**職場における仕事とケアの両立環境整備等**の支援が求められている。
- ・家庭、学校と地域資源等をつなぐ**スクールソーシャルワーカーの増員**により家庭全体を支援できる可能性がある。

長期欠席の状況、 SC/SSWの 利用状況

- ・長期欠席の状況としては、昨年度長期欠席の状態にあり、今年度も長期欠席しているお子さんが約50%。
- ・長期欠席の要因・きっかけとしては、**心身の不調**が最も多く、様々な課題への対応度を上げていく必要がある。
- ・外部の支援につなぐ役割としてスクールソーシャルワーカーがいるが、認知度も利用率も低く、**スクールソーシャルワーカーの増員と家庭に対する周知も求められる。**

●長期欠席の状況

「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。

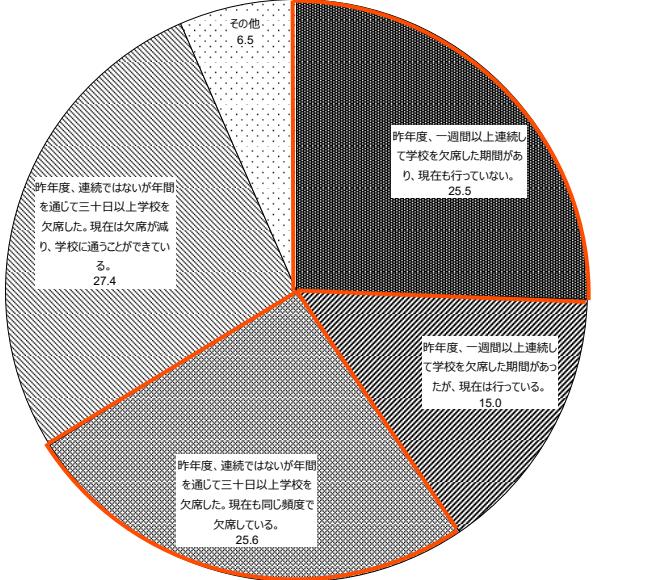
現在は欠席が減り、学校に通う事ができている」が最も多く27.4%、

「昨年度、連続ではないが年間を通じて三十日以上学校を欠席した。

現在も同じ頻度で欠席している」が25.6%、

「昨年度、一週間以上連続して学校を欠席した期間があり、現在も行つ

ていない」が25.5%。



n=844※

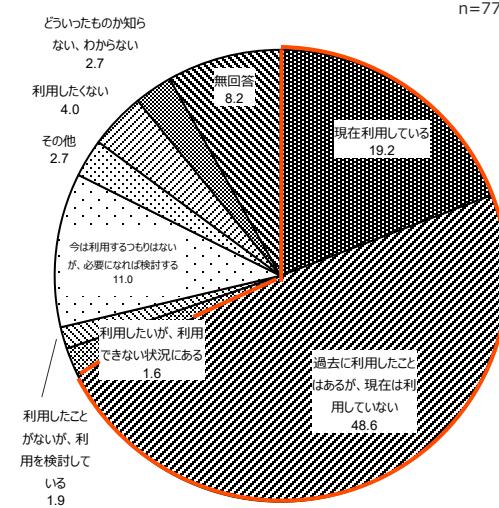
●長期欠席の要因・きっかけ

「からだの不調」が最も多く**32.5%**、また、「気持ちが落ち込んだり、いろいろしたりした」が**30.9%**、「夜ねむれなかったり、朝起きられなかったりした」が**26.3%**、「先生と合わなかった」が**25.1%**、「いやがらせやいじめをうけた」が**18.7%**となっている。（n=844）

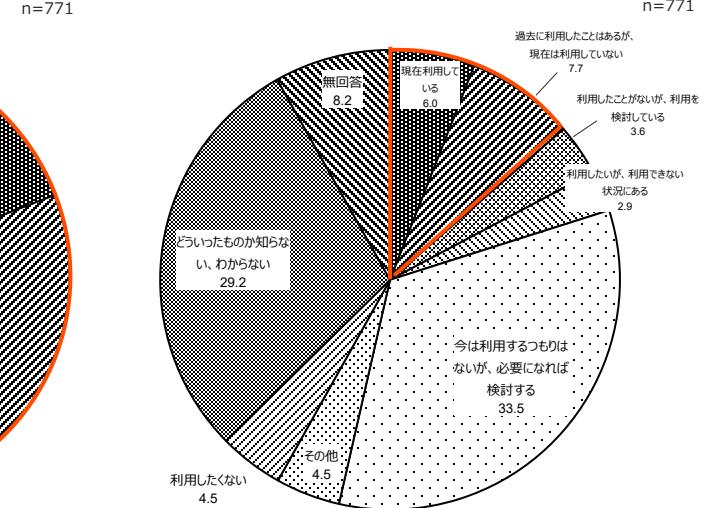
●スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー利用有無

スクールカウンセラー（左、以降SC）について利用したことがある人が67.8%に対し、**スクールソーシャルワーカー（右、以降SSW）は利用したことがある人は13.7%にとどまる。**

SCを「知らない、わからない」人は2.7%のみで、認知度が高い一方、SSWを「知らない、わからない」人は**29.2%**と高い水準である。



SC利用有無



SSW利用有無

※昨年度長期欠席したお子さん最大3名分について尋ねた設問のため、n数はお子さんの合計数。

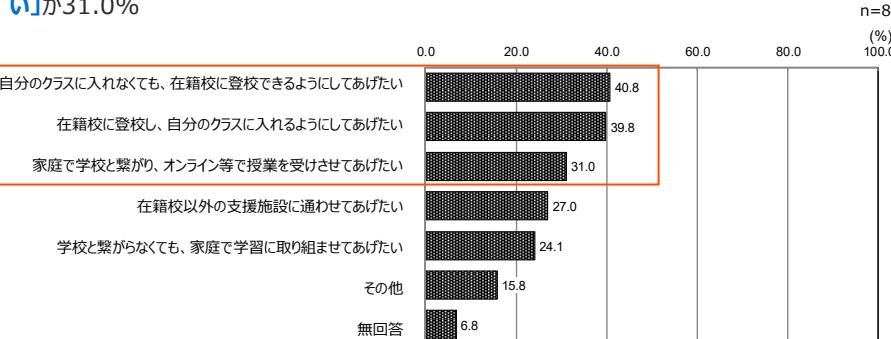
【調査概要】 調査対象：県内の公立小学校2年生～公立高校3年生の保護者 集計対象数：771件（昨年度30日以上欠席したお子さんの人数が1名以上の人）

調査期間：R7.7.8～R7.8.8 調査手法：web

- 在籍校への登校を希望する保護者が多く、**在籍校に教室以外の居場所を設ける**等の方策拡充が求められる。それ以外の方法もそれぞれ一定規模のニーズが確認されたため、**オンライン授業**、**在籍校以外での支援**、家庭学習等、多様な選択肢の中から家庭の希望する方法を選択できるよう、いずれの方法も整備することが望ましい。
- 学校（教育委員会）に求める支援としても、「**学校が安心できる場所になってほしい**」、「**在籍学校内に、教室以外の居場所をつくる**」、「**学校外支援（教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など）と在籍学校の連携をしてほしい**」を求める声が多く、学校に関すること、学校外支援に関すること、学校と学校外支援の連携等が求められている。

●保護者の思い

長期欠席時の保護者の思いとして、「**自分のクラスに入れなくても、在籍校に登校できるようにしてあげたい**」が最も多く40.8%、「**在籍校に登校し、自分のクラスに入れるようにしてあげたい**」が39.8%、「**家庭で学校と繋がり、オンライン等で授業を受けさせてあげたい**」が31.0%、「**学校外支援の連携をしてほしい**」が31.0%、「**在籍校に教室以外の居場所をつくる**」が27.8%、「**オンライン授業の充実等、家庭にいても受けられる学習支援をしてほしい**」が27.8%、「**スクールカウンセラー（SC）の相談時間を増やしてほしい**」が24.6%、「**スクールソーシャルワーカー（SSW）の対応時間を増やしてほしい**」が24.4%、「**登校時の付き添い等、登校支援をしてほしい**」が23.1%、「**スクールカウンセラー（SC）に相談したいが、方法がわからないので教えてほしい**」が21.8%、「**スクールソーシャルワーカー（SSW）に繋いでもらいたいが、方法がわからないので教えてほしい**」が18.4%、「**在籍校とは別に、公共の支援場所を増やしてほしい**」が17.9%、「**医療機関と繋がるための情報がほしい**」が17.5%、「**家庭環境や親子の関係についての相談窓口の情報がほしい**」が16.6%、「**費用を安くしてほしい**」が15.0%、「**学校ともっと連携してほしい**」が14.5%、「**進路の支援をしてほしい**」が13.4%、「**利用できる日数を増やしてほしい**」が12.8%、「**学校にいろいろ伝えないでほしい**」が11.7%、「**特になし**」が10.5%、「**その他**」が3.6%、「**無回答**」が2.3%です。

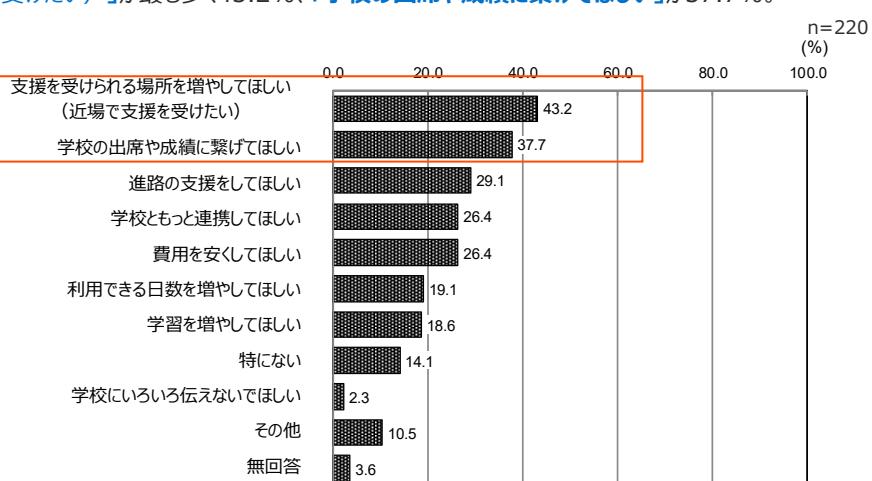


●学校外支援の利用状況

学校外支援の利用状況について、「**教育支援センター**」が最も多く51.8%、「**フリースクール**」が33.2%、「**フリースペース・居場所**」が27.7%となっている。(n=220)

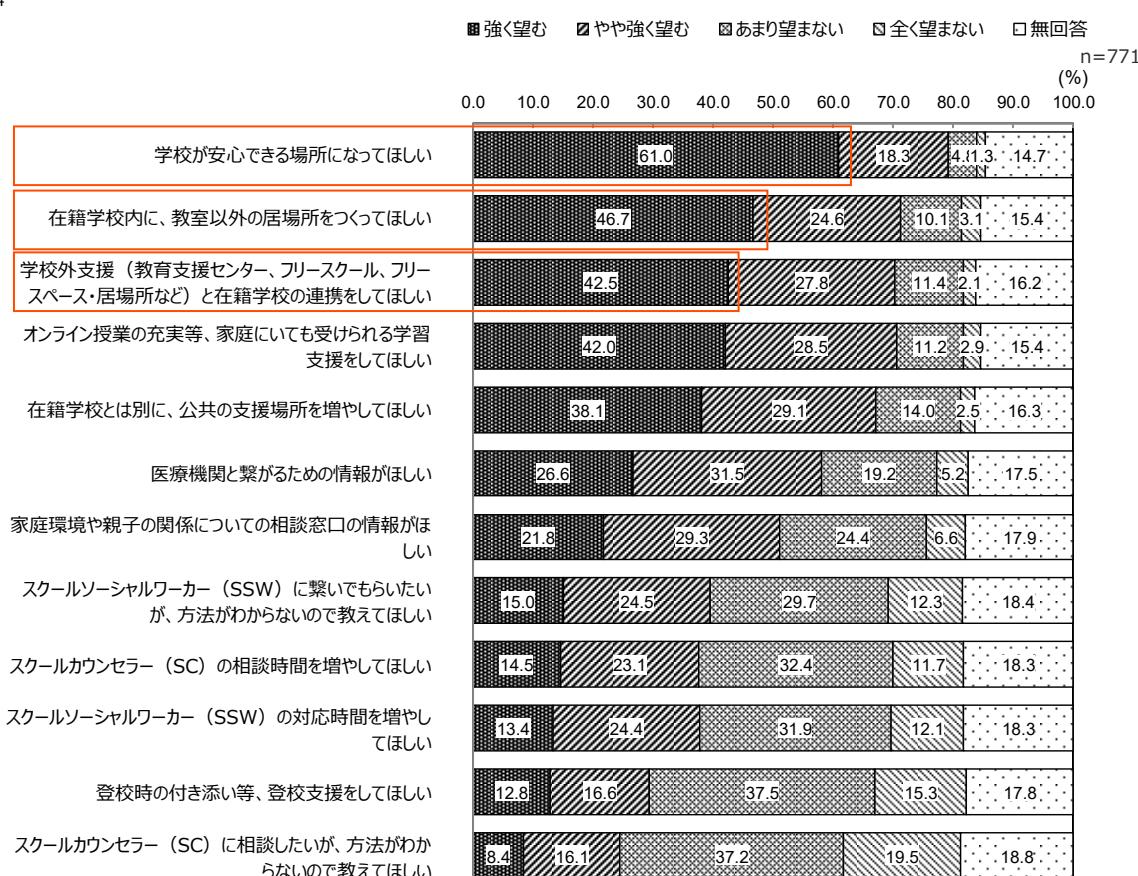
●学校外支援の改善点

学校外支援の改善点について、「**支援を受けられる場所を増やしてほしい（近場で支援を受けたい）**」が最も多く43.2%、「**学校の出席や成績に繋げてほしい**」が37.7%。



●学校（教育委員会）に求める支援

学校（教育委員会）に求める支援について、「**学校が安心できる場所になってほしい**」が「強く望む」割合が最も高く61.0%、次いで「**在籍学校内に、教室以外の居場所をつくる**」が46.7%、「**学校外支援（教育支援センター、フリースクール、フリースペース・居場所など）と在籍学校の連携をしてほしい**」が42.5%となっている。



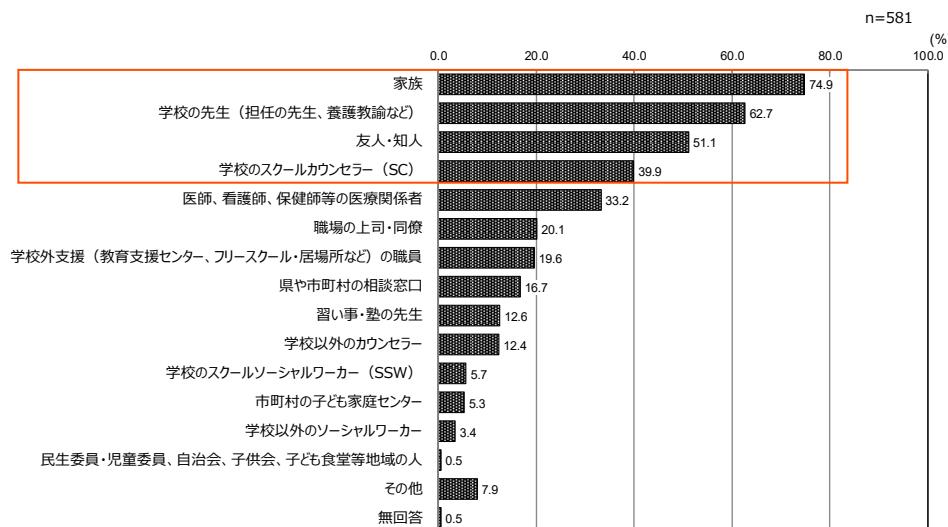
- 相談先は現状家族や学校の割合が高く、スクールソーシャルワーカー等の相談先を周知することで、家庭の助けになる可能性がある。
- 望む支援は、お子さんの居場所に関すること（学校内、学校外）、お子さんの心理的支援、家庭支援（情報提供）、働き方や職場に関する支援等が求められている。

●長期欠席のお子さんについての相談相手

相談相手がいると答えた保護者は75.4%。

その相手としては、「家族」が最も多く74.9%、「学校の先生（担任の先生、養護教諭など）」が62.7%。

SCに相談できている人が39.9%に対し、SSWは5.7%にとどまる。



●お子さんの長期欠席に対して、行政に望む支援

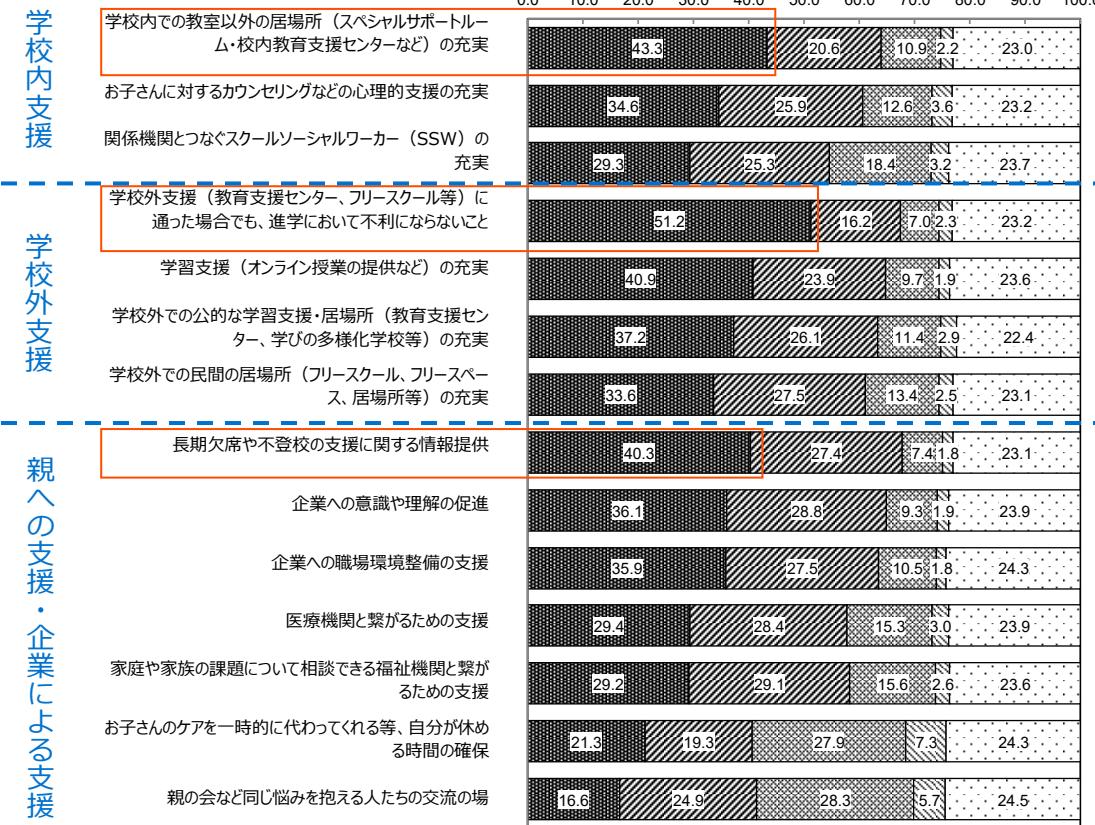
行政に強く望む支援について、「学校外支援（教育支援センター、フリースクール等）に通った場合でも、進学において不利にならないこと」の強く望むが51.2%、「学校内の教室以外の居場所（スペシャルサポートルーム・校内教育支援センターなど）の充実」が43.3%となっている。

やや強く望むまで含めると、「お子さんに対するカウンセリングなどの心理的支援の充実」「学校外での公的な学習支援・居場所の充実」「学習支援の充実」の割合も高い。

「企業への意識や理解の促進」「企業への職場環境整備の支援」等、保護者の働く環境に関するニーズも高い。

長期欠席や不登校の支援に関する情報提供をしてほしいニーズも高い。

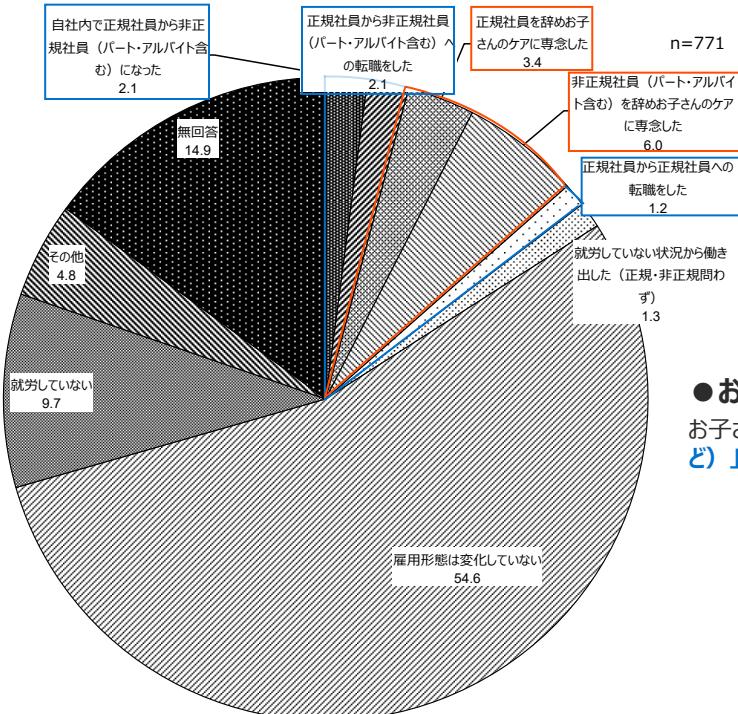
n=771



- 離職・転職した人が約1割おり、喫緊の対応が必要。企業向けのケアラー支援の重要性周知も必要。
- 「柔軟な勤務時間（登校支援・通院対応にあわせた出退勤調整など）」、「お子さんのケアに理解がある職場風土（同僚・上司の理解も含む）」の環境づくりにセットで取り組むよう企業向けに周知していく必要がある。

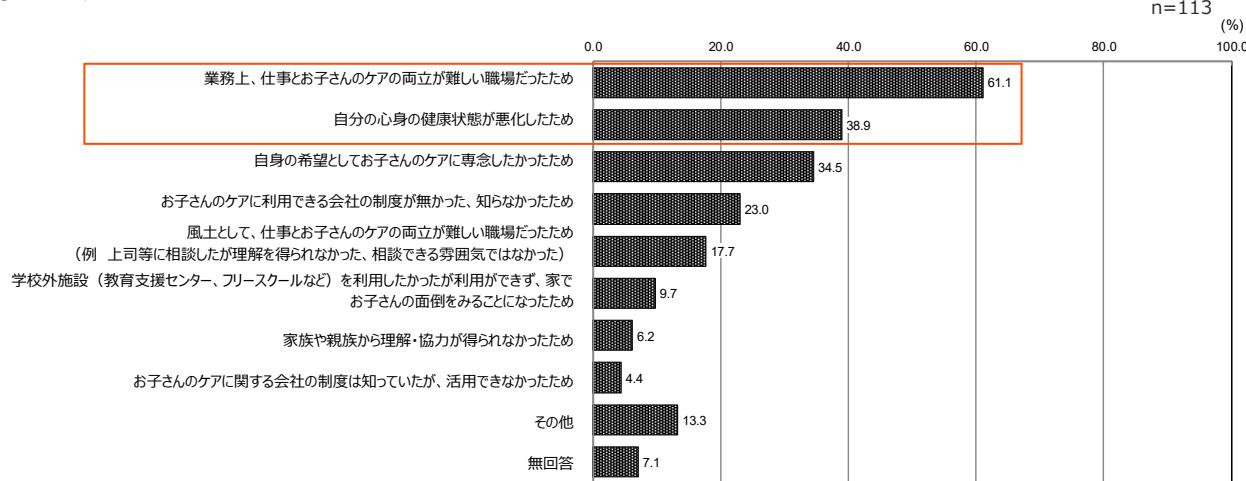
●保護者の雇用形態の変化

お子さんのケアに起因し、**仕事をやめお子さんのケアに専念した人が9.4%（赤枠）**、**雇用形態を変えた・転職した人が5.4%（青枠）**



●雇用形態を変えた理由

「業務上、仕事とお子さんのケアの両立が難しい職場だったため」が最も多く61.1%、「自分の心身の健康状態が悪化したため」が38.9%。仕事を続けたい人が、離職せず仕事と子どものケアの両立ができるよう企業に環境づくりを求めていく必要がある。仕事と育児・ケアにより健康状態に影響が出て離職や転職に至っている保護者がいる状況のため、長期欠席にある子どもだけでなく、保護者を含めた**家庭全体を支援する**ことが求められる。



●お子さんのケアと仕事を両立させるために勤務先に求める

お子さんのケアと仕事を両立させるために勤務先に求めるることは、「柔軟な勤務時間（登校支援・通院対応にあわせた出退勤調整など）」が最も多く57.3%、「お子さんのケアに理解がある職場風土（同僚・上司の理解も含む）」が43.2%。

